

走り込み

中学生のときは、ソフトテニス部（軟式テニス部）でした。テニスコートは、野田中学校と同じように校庭にありました。土のコートのため雪が積もると長期間にわたって使えなくなります。

では、冬の間の部活動はどうしていたのでしょうか。私の記憶にあるのは、毎日5kmをみんなで走ったことです。あの頃は、マラソン大会があり、そのコースが5kmでした。マラソン大会のコースを毎日走ったのです。

他にも雪が積もった校庭でサッカーをやったり、ラケットを持って素振りをしたりしたとは思いますが、あまり覚えてはいません。

しかし、走ったことだけは覚えています。5kmを走るのには、そう簡単なことではありません。道路が乾（かわ）いていれば約25分、雪があれば30分以上はかかります。いくらみんなで走っても、決して楽しいものではありません。

それなのに、なぜ続けたのでしょうか。顧問の先生の指示ではありません。自分たちでそうしていたのです。きっと、走るのが大事なことだとわかっていたのだと思います。メンバーの意識が高かったのでしょう。

私たちのチームは、新人大会で団体も個人も優勝していました。夏に向けての目標もありました。ところが、冬の間は、テニスコートでボールを打つことはできません。では、どうすればいいのでしょうか。何ができるのでしょうか。今、何をしておくべきでしょうか。みんなで出した答えが走ることだったのです。走ることが、すべての基本であることを何となくわかっていたのだと思います。誰に言われるわけでもなくそれをみんなで続けたのです。

何でもそうですが、毎日続けることは大変なことです。冬の間私たちの「走り込み」の成果は、暑い夏に出てきました。いくら技術があっても、それを生かす体力がなければ試合で勝つことはできません。私たちには、その体力が備（そな）わっていました。

走るとは、普通の中学生にとって、楽しいというよりはつらく苦しいものでしょう。つらく苦しいものほど、大切なこともあるのです。そして、つらく苦しいことによどのように取り組むことができるかによって、その人がわかることもあります。そこに、その人の本当の姿が出るように思います。

今思うと、自分がしっかりしていたというよりは、メンバーに恵まれていたのだと思います。みんなで考えて、みんなで取り組んでいました。春になり、テニスコートから雪が消え、ボールが打てるようになったときの喜びは、みんなの笑顔に出ていました。冬の間走り込みを経験したからこそその喜びや笑顔だったと思います。